

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	長野県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	木祖村立木祖中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	4	12
生徒数	28	32	36	2	98	

研究の概要

1. 研究主題

課題をもって追究し、基礎的・基本的な内容が身につくための指導はどうあったらよいか

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

2年生・英語
基礎的・基本的な学力の個人差が、他教科と比較して大きいため。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 身近な話題について話す力をつける指導はどうあったらよいか。</p> <p>研究の見通し 英語の4領域の技能の中で、「話すこと」についての学力が十分身につけていないという本校生徒の実態がある。本年度から始めた習熟度別授業を生かしながら、この課題にせまろうと考えた。</p> <p>研究の内容・方法 学力実態調査、習熟度別授業の実施と改善、話す力を高めるための音読指導。</p>
--------	--

平成16年度	<p>テーマ 身近な話題について話す力をつける指導はどうあったらよいか。 (継続)</p> <p>研究の見通し 少人数学習集団のよさを生かせる教材の開発と、個に応じたきめ細かな評価と指導のあり方を中心において研究を進める。</p> <p>研究の内容・方法 少人数学習集団に即した単元展開、評価と指導の一体化</p>
--------	---

(3) 研究推進体制

教務会：研究推進計画立案
教科会：教科間の連絡調整
研究班：重点研究教科(英語)の研究推進

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

習熟度別授業の実施と改善

初めて習熟度別授業を導入した(数学・英語)。基礎コースと標準コースから生徒の希望を尊重して編成したが、基礎コースを希望する生徒が多く、きめ細かな指導ができなかった。そこで、ガイダンスにより人数調整を行うとともに、基礎コースは教師対生徒、標準コースは生徒対生徒の活動を重視した指導をすることで、成果をあげつつある。

話す力を高めるための音読指導

習熟度別クラスに応じたモデル対話の提示、モデル対話をういた段階的な音読練習、場面や状況を意識した対話づくりなどの手だてが、音読からスピーキングへのスムーズな移行を促すために有効であることが実証された。

2. 今後の課題

単元配列や進度を同じにして指導する中で、少人数学習集団に即した単元展開のあり方を研究する。さらに、よりきめ細かな指導をめざして、個人レベルでの評価と指導を充実させる。

学力把握のための学校としての取組

CRTテスト(4月、本校生徒の学力を客観的にとらえるため)
定期テストにおける類似問題の出題(学力の定着状況を年度比較するため)
英語検定の受検奨励(個人の関心意欲や総合的な学力を把握するため)

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

公開授業

15年度:平成15年9月22日

公開教科 英語(基礎コース・標準コース)

公開内容 授業公開及び授業研究会

16年度:期日未定

公開教科 英語(基礎コース・標準コース)

公開内容 研究発表、授業公開及び授業研究会、講演会

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	3学級以下	4～6学級		
	7～9学級	10～12学級		
	13～15学級	16学級以上		
【指導体制】	少人数指導	T・Tによる指導		
	その他			
【研究教科】	国語	社会	数学	理科
	外国語	音楽	美術	技術・家庭
	保健体育	その他		
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	